

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みつわり		
○保護者評価実施期間	令和 6年 11月 8日		～ 令和 6年 12月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 世帯	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 3日		～ 令和 6年 12月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 名	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・業務に有益であり職員の意欲向上や地域課題の改善につながる研修等に積極的に参加し、また保護者とともに学ぶ機会を設け、コミュニケーションが図られています。	・保護者と職員がともに学び、互いの立場の違いを理解しあう交流する場として、令和5年からみつわり学習会を企画、開催しています。	・学習会に参加しやすい日時や知りたい内容など保護者からのご意見も頂きながら、来年度も継続していきたいと思えます。
2	・長く勤続している職員が多く、利用者との長期的な関りができています。そのため年齢と成長に応じた変化への気づきができ、支援を行うにあたっての強みとなっています。	・成人期の支援を知ることで利用者の将来像を考えるなど、放課後等デイサービスの業務ではなかなか知り得ないことを法人内外からの学ぶ機会を持つことで補完するよう配慮しています。 ・利用者個々のフェイスシートを作成し必要に応じ追加修正し利用者の成長をたどりまた職員間で共有できるよう取り組んでいます。また、毎日のミーティングや月例の会議など全職員で情報を共有し話し合うことを重ねチームとして支援できるよう努めています。	・利用者の成長や実状を細やかに把握し、ご本人や保護者の希望も伺いながら、安全で安心して過ごせる場として整備します。
3	・同一建物内で障害者のグループホームを行っており、日常の中で成人期の方の生活の一端を垣間見ることができるなど、成人期の方、高齢の方の支援を行っている法人であることが事業所の強みとなっています。	・職員は、法人内事業所間交換研修や実践研究報告会などを通し異分野・異業種について知る機会が設けられています。 ・就労系サービスの喫茶部門の看板を放課後等デイサービスで作成しご家族にも案内するなど交流的活動の機会を設けています。	・卒業後の将来への展望など考えていく際に、少しでも想像が膨らむように事業所の見学などお手伝いできることがあれば、事業所間でも相談しながら支援していきたいと思えます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・年齢差や障害の程度の違いがあり、活動や過ごし方に工夫が必要です。 ・偶発的ではありますが、支援学級在籍の子に比べ支援学校在籍の子が多い、特定の年代の子が多くを占めるなどといった特徴があり、全体の活動などについて配慮が必要となる場合があります。	・個別の支援計画を生活や活動の中で反映させる工夫が必要となります。個々の様々なニーズは、全体の中では時には相反するよう見えることもありますが、同じ活動の中でも目的とするところは変わりうるということも多々あります。	・どのようにしたら『みんなで』できる活動になるか、あるいは活動の中でどうすることがその子にとっての育ちの機会となりうるか、各利用者の特徴も踏まえつつ検討します。 ・活動や様々な場面で選択できる場面を設け、その日の気分や自分のできる事・やりたいことなど意志表出や自己決定支援にもつなげていきたいと思えます。 ・イベントなど普段と違う動きが苦手な利用者へは、前もっての練習や提示をして予め予測できるようになることでクリアできる部分もあるかと思えます。嫌な時には無理をしないことも選択肢に入れます。
2	・ご家族とのより良い連絡ツールなどICTの活用について検討しています。	・保護者との連絡手段が主に営業時間内の電話になっています。メールもできますが、事業所ではパソコンでの対応になっていません。 ・現在連絡ノートは手書き、お便り等は紙での配布で行なっています。いい部分もありますが、データでのやりとりの方が良いのか、業務効率等どう変わるのか等わからない事が多くあります。	・令和7年度より業務用のスマートフォンの導入を予定しており、メールやSNS等を連絡ツールとして活用することを検討します。 ・他の放課後等デイサービスで活用しているもの等、情報収集し検討します。
3	・グループホームの利用者も同施設を出入りする為、感染症のリスクがあり、拡大防止のために営業を一時休止にしたことがあります。 ・同施設を放課後等デイサービスとグループホームで共有していることから感染症等については特に配慮が必要となる場合があります。	・グループホームの利用者は各々作業所や職場に通っていること、様々な人との交流があること等、どうしても避けられない事柄もあります。 ・日々の情報交換や会議で双方の状況や共通課題の確認を行い、また対策を講じています。リスクがある一方連携・協力することで強みともなりうるかと考えています。	・感染症のリスクや予防対策・対応マニュアル等について再確認します。 ・グループホームの職員とも密に情報共有を行ない、日々の対策に加え総合防災訓練等については協働で行っています。また、各災害について互いの動きや協働するところを確認できるよう「協働マニュアル」を作成していますがこれについては毎年見直しを行いより実効性のあるものに改良していきたいと考えています。